

報道関係者各位

Press release

ASG グループ 世界 24 カ国同時調査 第 3 回「オーナー経営者の意識調査」

- ー 世界平均で約 40%、日本で 51%のオーナー経営者がストレス増
- ー 「事業経営」をストレスと感じている日本のオーナー経営者は 47%

ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所、以下 ASG、本社：東京都千代田区、代表者：本田親彦）は、「オーナー経営者に対する意識調査」世界 24 カ国同時調査で、世界のオーナー経営者は、前年と比べるとストレスが増加していると発表した。

オーナー経営者の「総合ストレス度」 2004 年		
	台湾	69%
	香港	54%
	メキシコ	54%
	トルコ	54%
	インド	53%
	フィリピン	53%
	日本	51%
	ロシア	51%
	南アフリカ	50%
	シンガポール	46%
	アイルランド	41%
国際平均		39%
	ギリシャ	39%
	ポーランド	39%
	ドイツ	37%
	スペイン	37%
	フランス	36%
	オーストラリア	34%
	米国	34%
	英国	33%
	ニュージーランド	32%
	イタリア	30%
	カナダ	26%
	オランダ	25%
	スウェーデン	23%

出展：
Grant Thornton International
2005 International Owners Survey

数値は「以前よりもストレスが一著しく増加した」「増加した」と回答した人のパーセンテージ

事業経営のストレス度 47%

ASG が日経リサーチに依頼して実施したオーナー経営者に対する意識調査の結果、日本のオーナー経営者の 47% が事業経営によりストレスが発生すると回答しました。この比率は、同時調査を実施した 23 カ国の国際平均値 44% に近い水準にあります。（参考資料：1）

前年比較 44%アップ

過去 1 年で前年より事業経営のストレスが増えたとする経営者は 44%で、同時調査による国際平均 23%よりかなり高い数値になっています。過半数の経営者は前年よりストレスが減少していますが、ストレスが増えたとする経営者の比率は、国際平均より非常に高い水準にあります。この 1 年の日本固有の原因としては、多発する企業不祥事、少子化に追い討ちをかける年金不払い問題、増税機運、一向に改善しない価格デフレ問題、後退した行財政改革などがあげられます。（参考資料：2）

アジアの競争激化

日本より前年対比のストレス度数値が高くなった国は、台湾、ロシア、フィリピン、香港、インドなど、アジア地区に集中しています。とくに、「競争激化」では、フィリピン 80%、トルコ 66%、台湾 64%、シンガポール 61%などのアジア地区が圧倒的に多く、世界におけるアジア経済の向上と併行して、アジアにおける経済競争が一段と激しさを増しています。（参考資料：2）

日本のオーナー経営者が特にストレスを感じる 4 項目

- ・ 競争激化 61%
- ・ 経済環境が事業に与える影響 52%
- ・ 会社のキャッシュフローや利益率に対するプレッシャー 48%
- ・ 技術進歩や最新技術に乗り遅れないこと 43%

日本では、「競争激化」61%について、「経済環境が事業に与える影響」52%が高く、引き続き、オーナー経営企業にとっては、厳しい環境が続いていることが伺えます。「会社のキャッシュフローや利益率に対するプレッシャー」48%も同様に、企業の業績改善がまだまだ十分軌道にのっていないことを物語っています。（参考資料：3）

総合ストレス度

総合評価で、日本の経営者は51%がストレスを感じていることになります。国際平均39%よりかなり高い水準にあります。（参考資料：オーナー経営者の「総合ストレス度」）
ストレスに関連して医者にかかったとする経営者の比率は12%に及んでいます。（参考資料：4）

技術力日本の原動力

さらに、「技術進歩や最新技術に乗り遅れないこと」43%は、国際平均24%から見て、高い水準にあり、調査国中トップです。引き続き、日本企業が技術進歩を重視していること、およびそれによる競争が厳しいことを物語っています。この意識の高さが「技術力の日本」を支える原動力と言えます。

競争激化

アジアにおける競争激化や日本における技術進歩への厳しさなど、当事者にとっては厳しい環境ですが、アジアの競争力にしろ、日本の技術力にしろ、それら厳しい環境の結果が、高い競争力を維持し勝ち抜く力を蓄える結果となっている点が注目されます。

オーナー経営者の E-MAIL ストレス度は低水準

「大量の e-mail がストレスを与えるかどうか」について、日本は11%で国際平均の21%を大きく下回っています。国際比較でこの項目の比率が高い国は、フィリピン41%、トルコ34%、スウェーデン32%、米国27%などです。高い国の特徴は二つに分かれており、普及し過ぎて弊害が出始めたスウェーデンや米国と、経済の発展途上で格闘しているフィリピンやトルコなどで、二極分化と言えます。

日本のオーナー経営者の e-mail ストレス度が低いのは、経営者の e-mail 利用度が低いためと思われます。日本のオーナー経営者は、インターネットよりも、フェイス・ツー・フェイスのコミュニケーションがまだ主流であることを示しています。

余暇の不足

「余暇の不足」をストレスと見るオーナー経営者は、日本では27%です。国際平均である32%を下回っています。「家族や友人と過ごす時間が十分取れない」21%も、国際平均32%を大きく下回っています。余暇を重要なファクターと見ないライフスタイルに大きな変化はないようです。

以上

オーナー経営者の意識調査－概要

実施期間：2004年9月1日～10月31日

参加国数：24ヶ国

調査対象：6300名の世界の中堅・中小企業のオーナー経営者、または経営トップ

調査方法：電話インタビュー（日本、フィリピン、インド除く）

調査実施会社：日本では株式会社日経リサーチが日本国内における調査を実施。調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Experian Business Strategies Limited と Wirthlin Worldwide が取りまとめを行った。

分析手法：バランス統計手法 DI (Diffusion Index) — 景気判断 DI 「良い」との回答比率から「悪い」との回答比率を引いた指数—

＊この調査は、スマトラ沖大地震及びインド洋津波発生前に実施されたものです。

ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所）

所在地：東京都千代田区永田町 2-14-3 赤坂東急ビル 12F

代表：本田親彦（公認会計士）

グループ会社：ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、

ASG アドバイザーズ株式会社

U R L：www.gtjapan.com

ASG グループは、世界 109 カ国をネットする国際会計事務所「グラント・ソントン」の加盟事務所です。広い視野と一歩踏み込んだ独自の提案をしています。国際水準の監査の他、オーナー系企業・中堅企業への各種業務・コンサルティングサービスの提供についてはトップクラスの実績を誇ります。

「顧客との信頼関係の構築」を経営理念に、世界レベルのソリューションを提供いたします。

<ASG グループが提供する 12 事業領域>

監査・IPO・金融分野サービス・公益法人・事業戦略・国内税務コンサルティング・海外税務コンサルティング・評価・M&A/コーポレートファイナンス・対日/対外進出・システムコンサルティング

グラント・ソントン

グラント・ソントンは世界第 6 位にランクされるグローバルな会計事務所グループであり、オーナー企業および独立系企業を中心に監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。本拠地を米国シカゴに置き、世界 109 カ国、650 ヶ所以上の拠点、2200 名のパートナー、21,500 人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では ASG グループ（ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、ASG アドバイザーズ株式会社）が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

本件に対する問い合わせ先

ASG グループ マーケティングコミュニケーション担当 田代知子

T E L：03-3595-0304（直通） F A X：03-3595-0395

e mail：asgMC@gtjapan.com